

揖斐農林事務所の普及活動状況

令和3年1月25日現在

今月の重点活動

■茶 ASIAGAP 内部監査を全契約農家で実施

(農)桂茶生産組合では、ASIAGAP管理点と適合基準に則り、内部監査資格を持った組合役員による内部監査を年1回実施している。内部監査は、全契約農家31軒の農薬・肥料の取り扱い状況、書類の整備と記録状況の確認・指導するもので、本年は1月13日から22日まで行われた。組合では3月上旬に外部審査を実施することにしており、契約農家はこれに向けて内部監査で受けた指摘事項の是正を行う。

農業普及課は監査方法の事前打ち合わせ、監査初日に行われたシャドー監査(監査方法の実地検討)に加わり、農薬の適正使用等、重点的に確認すべき事項等について助言を行った。



【緊張感ある内部監査】

多様な担い手の育成・確保

■担い手 第2回「就農支援協議会開催」

1月8日に今年度第2回目の揖斐地域就農支援会議を開催した。

新型コロナウイルス感染拡大による経済情勢の悪化を受けて、今年度は就農相談が増加している中、新年度における制度の変更予定、研修実施状況、就農者の営農状況、新規相談者の状況等について関係機関で情報共有を行った。引き続き関係機関で連携しながら担い手の育成・確保を進めていく。



【会議の様子】

売れるブランドづくり

■大麦 品種転換に向けた大規模実証

現在、揖斐地域では麦茶用の大麦として「さやかぜ」を栽培しているが、今後、種子の確保が困難になることが見込まれるため、「カシマゴール」への品種転換の準備を進めている。

昨年に引き続き、令和3年産においても1.6haの大規模実証ほを設置し、「カシマゴール」の生育特性や加工特性等を検討するため、JAや全農と連携し定期的な生育調査を実施している。現時点において生育は概ね良好であり、今後は生育状況を見ながら、肥培管理や適期防除等について指導を行う予定である。



【関係機関と連携し調査】

■いちご **いちご産地の活性化に向けて（スマート農業を活かして）**

1月5～6日に各集荷場や生産者ほ場において、「DX農業実証農場」（仮称）の設置、環境制御装置等の設置、データ収集による分析並びに現地研修会について、情報提供した。

揖斐地区は、厳寒期の気温が低い・日照時間が短い等いちご栽培においては、不利な地域となっている。生産者の日々の管理について検討するため、温度・湿度・炭酸ガス濃度等の環境データ、生育データ等を収集・分析することにより、いちごの収量増加が期待される。

各生産者から、「温度や湿度はすでに測定しているが、活用方法が見出していないため、関心がある。」「自分のハウスの環境と他の方の環境を比較することは参考になる。」「データを他の方に知られるのは抵抗がある。」等、様々な意見が出された。

今後も、国・県の事業関係について情報提供し、いちご産地の活性化に向けて、支援を行っていく。



【事業の概要説明の様子】

■かき **柿の選定作業が実施される**

12月26日に大野町かき振興会技術部員が主体となり、剪定作業に関する研修会が大野町内6会場で実施され剪定技術について再確認した。農業普及課からは令和2年産柿栽培に関する課題等について情報提供した。12月下旬頃から大野町内では剪定作業が本格的に開始した。

1月12日には、剪定作業等の請負作業を大野町内で広く実施している牛洞柿クラブのメンバー5人を対象に、土地柄から強樹勢となり、樹の生育が特徴的な下座倉地区の柿園の剪定方法について、農業革新支援専門員を講師に剪定講習会が行われ農業普及課は開催支援を行った。

樹勢に応じた剪定の技術、栽培管理について質問も多くあり、牛洞柿組合のメンバーは管理作業を行うにあたり課題解決につながった様子であった。



【剪定講習会の様子（下座倉地域）】

住みよい農村づくり

■わさび **揖斐の新たな特産品づくり**

揖斐川町小津地区では、昔から自生わさびを生産していたが、徐々に衰退していた。平成27年から地元の区長を中心にわさび田を復活させ地域特産物として、商品化する取り組みが始まり、補助事業等を活用しながらわさび田を再整備し、R元年度から収穫が始まっている。今年度は12月10日に農業経営サポート事業を活用し、加工技術などを専門家に相談した。その中で、優良現地の視察の助言があったため、1月7日に郡上市の生産者を視察し、栽培状況や加工品の販売方法を情報収集した。今後も関係機関と連携し、揖斐の特産品となるよう支援していく。



【現地視察の様子】